

「働いている人のためのNPO等支援窓口」

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

1. 事業が目指すところ

地域で社会的事業を始めようとする人たちやはじめている人の状況は様々で、休日や夜に相談したいニーズに対して、相談の機会を作った。

とくに淡路島等の過疎地では人口減少が進み新たな地域課題が発生している。その解決のために「相談」と「つながり」の機会をつくり行政だけに頼らない「地域が地域を支えるしくみ」を創る。

2. 活動内容

①日曜日等の休日及び夜の相談対応

淡路島の洲本市及び淡路市に日曜出張相談を実施

②淡路市立津名図書館での「まちづくりネットワーク交流会」の開催

10月29日 第1回 まちづくりネットワーク交流会

ゲスト：株式会社須磨北造園土木 席定京吾さん

参加者：33人

1月31日 第2回 まちづくりネットワーク交流会

ゲスト：バームクーヘン専門店 café maaru 三宅英樹さん

参加者：36人



3. 成果や課題点

(成果) ①日曜日等の休日に相談対応できた。

②図書館を通じて、まちづくりの輪の中に多様な人を巻き込むことができた。

(課題点) ①休日相談の認知度の向上

②まちづくりネットワーク交流会の定着と継続性

4. 今後の展望、成果の活用

(今後の展望) 図書館における多様な人の交流を通して、そこで生まれる「つながり」と「人財バンク」的なストックを活用し「地域で地域を支えるしくみ」を創っていく。

(成果の活用) 淡路市で創った「つながる図書館」を西脇市等の他地域にも展開し、各地にある「図書館」を地域づくりのプラットフォームとして活用してモデルを増やしていく。

— 事業報告資料 —
「地域食育から始めるSDGs(人類の目標)事業」

食親同好会

1. 事業が目指すところ

1) 人々が多忙な中で、食の大切さを忘れて栄養が偏り、不規則な食事、生活習慣病の増加等が顕在化している課題がある。
2) 食育とは食べることの学びであり、①バランスのとれた健康的な食生活を実践する能力、②マナーの習得、③食料・地球環境への問題意識をもつ、この目的達成に神戸の3女子大と連携して取り組む。
3) 近年、日本はごみ焼却量が世界上位で食品ロス等ごみ削減課題が山積み。地域の美化活動団体と連携して東灘クリーンサミット(学習&意見交換会)やクリーン活動を励行し、循環型地域作りを実践。食をテーマに「地域食育」(地域のパートナーシップを活用した食育)からSDGs関連事業を実施。食育等への取り組みから誰一人取り残さない「住み続けられるまちづくり」を目指し、循環型社会環境づくりを連携の活性化から着実に実行することを目標とする。



2. 活動内容

年月日	活動内容	年月日	活動内容
R3.6.26	免疫力アップクッキング(多世代対象)、 於:東灘区文化センター、参加者:14名	R3.10.30	キッズクッキング(親子対象) 於:東灘区文化センター、参加者:33名
R3.7.10	サーブディイベント(多世代対象)、 東灘区内周辺の美化活動、参加者:110名	R3.11.17	東灘クリーンサミット(多世代対象) 出前トーク&美化団体協議、参加者:21名
R3.7.11	フレイル予防クッキング(高齢者対象) 於:東灘区文化センター、参加者:22名	R3.11.28	フレイル予防クッキング(高齢者対象) 於:東灘区文化センター、参加者:25名
R3.10.10	食養生クッキング(成人対象) 於:東灘区文化センター、参加者:25名	R3.12.19	栄養療法クッキング(成人対象) 於:東灘区文化センター、参加者:20名
R3.10.23	食育と環境イベント(多世代対象) 東灘区&灘区美化清掃活動&食育講演会、 参加者:80名	毎月2・3・4木 、3・4土 1~4水曜	甲南山手CC、山麓線CC、御影CC、十二間CC、魚崎CC、岡本CC、山幹CC、六甲道CC、2号線CC、年間108回、参加者:648名

3. 成果と課題点

(1) 成果→清掃活動は普遍的に環境浄化であり、人体の内外を善流循環させることが健康寿命を伸ばす！
1) 食縁交流会活動：年3回計画、54名（フレイル18名、栄養18名、免疫力18名）
→年5回実績、計106名（フレイル2回／47名、栄養20名、免疫力14名、食養生25名）
2) 環境美化活動：年133回計画、660名（クリーンクルー630名、クリーンサミット30名）
→年109回実績、クリーンクルー参加者648名、クリーンサミット参加者21名 計669名
3) 多世代交流イベント活動：年3回計画、178名（食育100名、サーブ60名、キッズ18名）
→年3回実績、食育と環境80名、サーブ110名、キッズ33名 計223名

(2) 事業の反省点→コロナ禍に振り回された一年でしたが、コロナとの共生が今後の打開策となる！
1) コロナ禍でも感染症予防対策を徹底すれば活動継続できたが、社会参加の勧誘不足が響いた。
2) 食生活でのコロナ予防として、免疫力を高める腸内フローラ改善策という広報が参加者に留まった。
3) 自分の健康と他人への思いやりを発揮することでパートナーシップの大切さを学び、地域への善波動をSDGsの実践につなげようとしたが、コロナ騒動で十分な支援を発揮できなかった。

4. 今後の展望、成果の活用

1) 食縁交流会活動：第4次食育推進計画(SDGsの実現に向けた食育の推進)の具体的実践
→現状では全世代対応として、親子・小中生・高齢者対象の食縁交流会を展開した。
当助成のヒヤリング時に中間世代(青年~成年)が中抜けだと指摘され、ひょうご出会いサポートセンター(兵庫県青少年部)と提携し、「あいサポ応援団」として少子化対策に取り組む。
2) 環境美化活動：SDGs第11目標「住み続けられるまちづくりを」の社会的包摂づくりの契機
→現在、地域ネットワーク組織(クリーンクルー団/事務局:食親同好会)として9CCを形成することで、令和3年10月に国土交通省兵庫国道事務所のHP上に国道2・43号の美化・清掃活動の実施団体として公表された。単なる美化活動にとどまらずダブルタスク(二重課題)として、「健康ウォーキング」を志向する。
3) 多世代交流イベント活動：コロナ禍、節度をわきまえた「ごちゃまぜ文化」の創出
→従来のキッズ対象と大人対象を比べた場合、圧倒的に後者の比率が高いので、キッズプログラムとしてワークショップ形式で環境(自然の神秘と不思議さ)に関連した施策(SDGsの自分ごと化)を実施したいと思う。

「土曜つどいのひろば」

特定非営利活動法人 サポートステーション灘・つどいの家

1 事業が目指すところ

当事業は、2021年7月からスタートした、食事支援・学習支援・心のケアを目的とした子どもの居場所づくり事業である。それまでも平日に実施していたが定員となり、コロナ禍で必要性を感じた為に立ち上げた。特色として、土曜日午前中の開催、成徳地域福祉センターの新規利用、大学生講師、簡単な調理実習と食育、同日同所で開催中のデイサービスとの相互作用が挙げられる。より地域に根差し、地域連携も目的とした。

2 活動内容(子どもの居場所と広報活動。基本第2・4土曜日 10~12時。下表は1月末までの開催日と参加人数)

①	7/10(土)	5	②	7/24(土)	7	③	8/7(土)	7	④	8/25(水)AM	13
⑤	8/25(水)PM	5	⑥	8/28(土)	5	⑦	9/11(土)	9	⑧	9/25(土)	9
⑨	10/9(土)	10	⑩	10/23(土)	10	⑪	11/13(土)	12	⑫	11/27(土)	12
⑬	12/11(土)	13	⑭	12/25(土)	13	⑮	1/22(土)	14	⑯	1/29(土)	14



2021.8
セミナー
ゲスト



3 成果や課題点

- (1) 成果：土曜日食事付の開催は、共働き保護者から助かるという声を頂いた。成徳地域福祉センターは小学校敷地内にあり、低学年も安心して参加できた。大学生には話しやすいと子どもが話した。炊飯等、初めての体験を学習の合間に楽しめた。全く勉強しなかったのに当事業参加後、塾に通い出したと喜びの声も頂いた。高齢者と脳トレなど多世代交流ができた。活動の見学者が増えた。セミナー参加者がボランティアで参加するようになった。新たな企業との連携、住民から食材を頂いた。
- (2) 課題点：ブログの更新やチラシ配布の作業が滞りがちとなった。スタッフ増員の必要性を感じ、やりがいに着目したスタッフ募集の広報活動が課題である。

4 今後の展望、成果の活用

得られた成果を落とし込みチラシに特色を出し配布する。今後も心の拠り所となる居場所作りの理念のもと、他機関と連携を図りながら、より良い支援ができるよう活動していく。

「共生のまちを目指して！障がい者施設デジタルスタンプラリー＆書道パフォーマンス」 (地域づくり活動NPO事業助成)

特非) あしやNPOセンター

1. 事業が目指すところ

目指すところは、「共生のまちづくり」。

芦屋市では市内の障がいのある人のこと、そのような人の居場所となる施設のことを知っている子どもたちが少ないことが分かり、「だれも取り残さない、安心安全な共生のまち」を目指すには、若い世代から意識付けをしていくことも大事な取組みであると考え、障がい者施設の動画制作、それを見もらうためのスタンプラリー、周知啓蒙するイベントの開催を行った。

2. 活動内容

4月下旬 …編成&企画会議（撮影スタッフ、編集スタッフ、イベントスタッフなど）

5月初旬 …動画撮影希望施設の募集

6月12日…動画撮影講習会

6月中旬 …施設訪問&動画撮影開始、編集作業 ～7月初旬まで

7月26日～8月6日…デジタルスタンプラリークイズ景品交換

8月12日…書道パフォーマンス

(芦屋市市制80周年東京パラリンピック採火式「あしやの火」プログラム)

10月下旬 …障がい者施設紹介冊子制作&配布

3. 成果や問題点

(1)成果

- ・普段は入ることがない障がい者施設を往訪、見学する貴重な体験ができた。また、編集作業は多世代チームワークが機能し、期限内で終わることができた。
- ・デジタルスタンプラリークイズ景品交換所には、2週間で父兄合わせて約300人が来場。動画を見てクイズに答えるというアイデアが活かされた。動画(YouTube)視聴回数が1施設150～250回になるといった効果が得られた。
- ・書道パフォーマンスは、芦屋市と協働したことで、広報に大きな成果があった。

(2)事業の反省点

- ・紹介冊子のリリースがずれ込んでしまった。

4. 今後の展望、成果の活用

動画の視聴を増やしていくために、当法人が運営している地域情報サイト「ためまっぶ芦屋」に掲載し、共生のまちづくりに有効なツールとして活用してゆく。

「共生」という目的に向かって、多世代、異なる団体がボランティアで協力して進めていくことや力強いメッセージを残すことができるようなイベントや活動を提案、実践をしてゆく。



『「食べるから繋がり合う」武庫が丘の笑顔』地域づくり活動NPO 事業助成(先導的、先駆的事业)

NPO法人 武庫が丘まちづくりビューロー

1 事業が目指すところ

当初、『「食べるから始まる」武庫が丘の笑顔～地域サロン・地域食堂～』をテーマにして、事業所名「コミュニティサロンYOU」を2018年(平成30年)7月1日正式にスタートした。

4年目となる今年度はテーマの文言をこれまでの経験を勘案し、「食べるから繋がり合う」と広げたものにした。高齢化を迎え、①免許返納、体力の衰えなどから、送迎を含んだ事業とし、他方、②移行期としてこれまで同様の事業を柱とする必要があると判断したためである。事業の2本柱です。県ボランティアの助成事業としては、これまで同様の地域食堂を通して、地域の皆様が気楽に集える居場所作り、および高齢者の地域見守りモデル事業の促進、子どもの居場所づくりの推進に務めたいと考えた。

2 活動内容

(1) 高齢者や子育ての支援を行う事業

① 地域食堂(コミュニティサロンYOU)の運営：

当初は、火～金曜日の週4日、11時30分～14時を予定していたが、コロナ禍により、水、金曜日のみ、しかも持ち帰り→火、水、金曜日のみ、などの対応をせざるを得ない時期もあった。8月からは、火曜日を地域食堂として継続実施してきたが、1月末から、コロナの猛威を避けるため、残念ながら1ヶ月事業を中断した。



パーティションの設置

② こどもの居場所作り：

コロナ禍によってこどもの居場所作りの活動も大きく制限を受けた。小中学生の持ち帰り弁当を5月7日より週1回金曜に実施し、本事業の助成終了後も、2月の中断はあるが、継続実施している。また、6月末から夏休み期間の8月末までの8回、緊急支援として、必要な家庭に物資の支援を行った。コープこうべ三田西店、三田市、三田市社協の連携・支援を受けて効果的に行うことができた。

(2) 学びの場作りを通じた社会教育の支援を行う事業

①貸し教室事業：

長期休業時のこどもの居場所作りや学習支援講座などの学びの場の提供は、コロナ禍のもと残念ながら断念せざるを得なかった。ただし、隣の武庫が丘コミセンが長期に涉って休館しているなか、感染対策を行っている場として、自治会の緊急会合、地域放課後子ども教室の会合、継続実施している地域の高齢者、子どもさんのお弁当作りの唯一の貴重な場として提供することができた。

② 60歳からのピアノ教室、パッチワーク教室、活け花教室等、月、火を中心に社会教育の場の提供が可能な範囲ではあるが継続実施できた。

(3) 地域住民への生活支援を行う事業

①地域見守りモデル事業：

兵庫県地域見守り事業の助成事業を発展させ、8月からフラワータウン初の三田市通所型サービスB(高齢者ふれあいディサービス)事業＝「介護B」の委託事業を開始した。ニュータウンの住宅街という特殊な事情のため、サロンYOUという商業施設でなければ実施できない事業であるため、地域福祉の拠点として、三田市いきいき高齢者支援課、特別養護老人ホームゼフィール三田と緊密な連携をとりながら、見守り活動を継続実施している。

3 成果や課題点

今年スタートした介護Bの実施内容は、まさしく目標の「食べるから繋がり合う」の活動となった。午前の音楽療法を取り入れたフレイル予防、食事は黙食ながら、食後のコーヒータイムはマスクをしつつの会話、その後のミニ講座等、利用者の声を反映した、食を真ん中にした活動であり、地域の顔の見える関係がもたらす相乗効果を感じている。活動できる場があればこそ、これまでの事業の継続、今年度の新しい事業という2本柱が実施できた。助成事業の有り難さを痛感している。市の委託事業として2本柱を今後も継続していける希望が出てきたが、後はコロナの収束次第と考える。

4 今後の展望、成果の活用

小さな事業所ではあるが、利用者は、武庫が丘にとどまらずフラワー全域、さらにウッディ地域からの申込みもあり、この先駆的な取り組みに対して他地域の自治会関係者、民生委員さんも興味深く見守って下さっている。これまで積み上げてきたノウハウを他地域に伝え、先駆ではなくスタンダードな事業として取り組むことができるよう、努めていきたい。

2021年度 ボランタリープラザ中間支援助成 報告会
NPO 法人ひとまちあーと 「たつのイベント運営プラットフォーム創出事業」
【たつの・西播磨エリアの課題】

これまで、中間支援組織として、個人事業主から任意団体、NPO 法人、一般社団法人まで様々な規模の団体の相談に応じてきたなかで、最も多くの課題を抱えているのが「任意団体」であった。

地域社会において重要な役割を果たしてきた地域団体は、法人格を持たないが故に、「補助金頼り」「ボランティアによる運営」といった構造的課題を抱えてきた。近年では、「任意団体の事務局機能を当法人に集約してほしい」との相談が増加している。

【解決策】

「たつのイベント運営プラットフォーム」

事務局機能を集約する新たなプラットフォームを創出することで、負担の押し付け合いではなく、新たな事業展開が可能な体制へと発展させる。このプラットフォームによって得られる効果は以下の2点が考えられる。

- ① 間接部門や広報作業を集約することで効率的な運営体制を整えられる。
- ② 来場者数等の実績を合算できるので、企業等への広報・広告の訴求効果が高まり、広告協賛費を獲得しやすくなる。

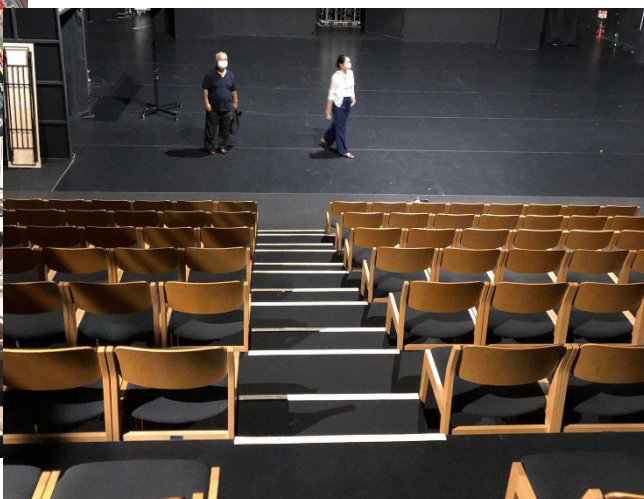
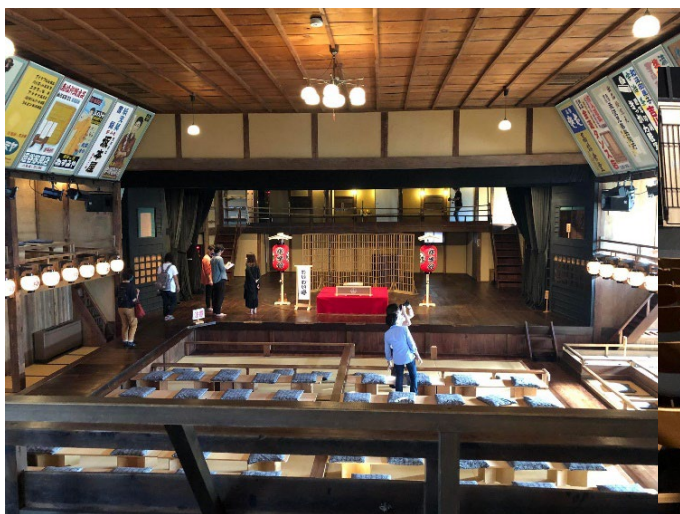
【今年度の取り組み】

i. 2021年10月10～11日

先進事例視察調査@豊岡市出石地区 / 城崎地区, 鳥取県鹿野町

訪問先：鳥の劇場、いんしゅう鹿野町まちづくり協議会、出石永楽館、城崎国際アートセンター、県立芸術文化観光専門職大学、山本屋(豊岡演劇祭実行委員長)

目的：「芸術」や「文化」をキーワードに様々なまちづくりの施策を実行してきた豊岡市。市民の立場で中心となって行動されている高宮氏（豊岡演劇祭実行委員長）に豊岡のまちづくりについて現地を案内してもらった。鹿野地区では、「鳥の劇場」の代表中嶋氏と劇場を中心としたまちづくりの可能性について議論しながら案内してもらった。



2021年11月11日(木)

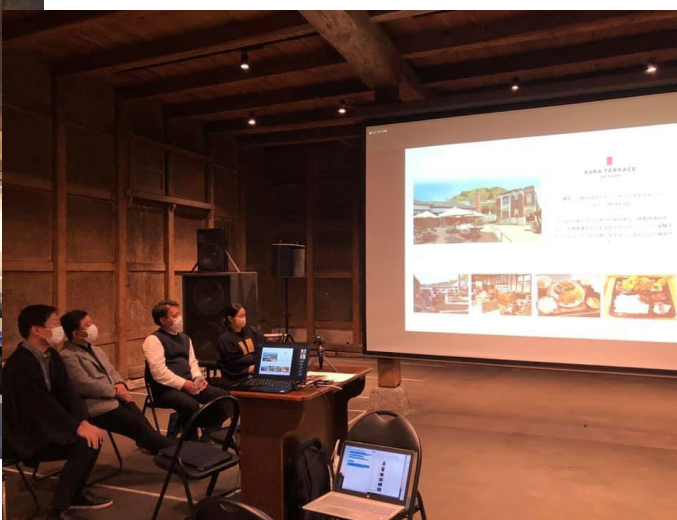
ムカシミライ学校まちづくり勉強会「岐阜の地域商社事例勉強会」

会場：みの劇場（たつの市龍野町川原 82）

登壇者：NPO 法人 ORGAN 蒲 勇介 氏

参加者数：49名

目的：岐阜県の長良川流域を中心に途絶えようとしている伝統工芸を繋ぎ合わせた地域商社「長良川デパート」を運営する NPO 法人 ORGAN の蒲氏をお招きし、龍野の産業や商業の今後の展開について議論する。



ii. 2022年2月24日(木)

ムカシミライ学校まちづくり勉強会「小さな世界都市を目指したまちづくり」

会場：みの劇場（たつの市龍野町川原 82）

登壇者：前豊岡市長 中貝 宗治 氏

目的：城崎国際アートセンターの運用や芸術文化観光専門職大学の開学等、アートを中心に様々なまちづくりの施策を実施してこられた、前豊岡市長・中貝氏をお招きし、「アート」をキーワードとしたまちづくりの今後の展望について議論する。

【成果】

2021年11月3日～29日

「たつのアートシーン 2021」開催

2019年まで「龍野オータムフェスティバル」として開催してきた(2020年はコロナのため中止)ものを発展。来年度以降、本格的に動き出すプラットフォームの在り方を地域団体に理解してもらうことができた。期間中の来街者数は8万人、来場者数は延べ1万6千人を超え、大盛況のうちに閉幕した。



(特非)愛ランド 「愛ランド ちいき食堂」

1. 実施地域の情勢

たつの市 (2005年10月1日に合併)

旧龍野市、旧新宮町、旧揖保川町、旧揖西町

	人口 (人)	高齢化率	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
旧龍野市	40,550	18.2	69.75	581.36
旧新宮町	17,363	19.9	99.55	174.41
旧揖保川町	13,107	16.8	23.66	553.97
旧御津町	12,187	18.6	17.97	678.19

(2005年10月時点)

旧新宮町内の地区

西栗栖、東栗栖、香島、新宮、越部

人口 14,481名

内訳 小学生 813名 70歳代 1,784名

中学生 434名 80歳代 1,094名

高校生 470名 90歳以上 307名

高齢化率 31.66% 70歳以上 21.99%

(2017年7月時点)

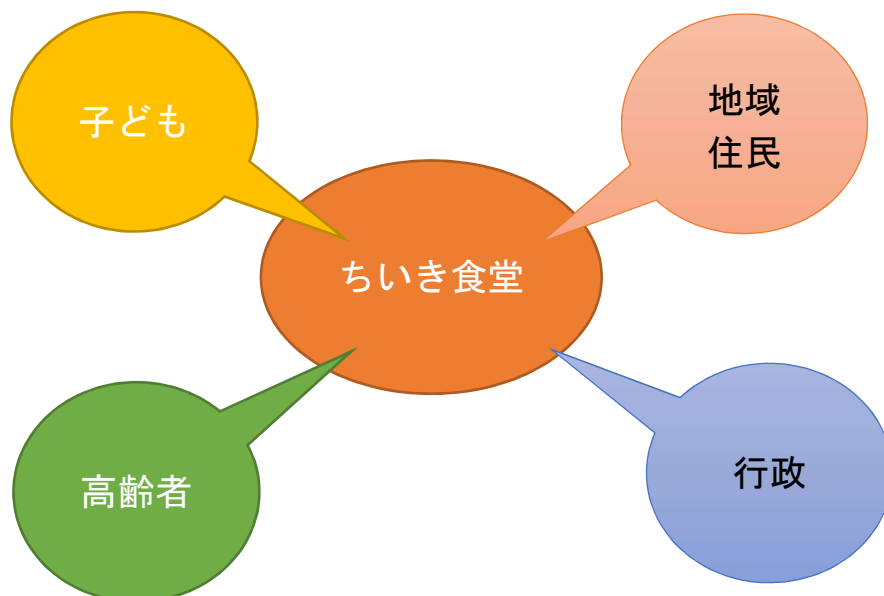
2. 子ども食堂の目的

- ・ 貧困家庭の子どもの救済
- ・ 高齢者の孤独死の防止
- ・ 子どもと高齢者のコミュニケーション
- ・ 地域が一体となり、弱者の救済ならびに地域の発展に積極的に寄与する

3. 子ども食堂の運営方針

- ・ 地域住民の積極的な参加
- ・ 地域の活性化に繋げる

4. ちいき食堂のあり方



5. ちいき食堂の実績

回数	2019年度			2020年度			2021年度		
	子ども	大人	合計	子ども	大人	合計	子ども	大人	合計
1	8	16	24	10	39	49	12	8	20
2	10	27	37	0	67	67	8	10	18
3	0	35	35	13	45	58	40	31	71
4	12	27	39	15	8	23	20	17	37
5	9	38	47	7	10	17	25	20	45
6	18	21	39	15	35	50	20	15	35
7	19	38	57	10	15	25	19	13	32
8				15	8	23	45	30	75
9				15	10	25	21	15	36
10							20	18	38
11							25	21	46
合計	76	202	278	100	237	337	255	198	453
増加率（前年対比）				121%			134%		

2019年10月6日 読売新聞

チラシ



6. ちいき食堂の今後

- ・「ちいき食堂」の運営は、「ぽたぽたくらぶ」様が実施する

※「ぽたぽたくらぶ」

姫路を拠点に、西播磨を中心に、安心安全な料理を提供する料理教室を運営

- ・愛ランドは、当面、食材の提供と参加者へのPRを担当する

空き家問題を解決するためのアップサイクルプロジェクト

特定非営利活動法人Goodstock

事業が目指すところ

たつの市内の空き家に残された家具、解体空き家から出る古材・廃材をリユース/アップサイクル(元々の形状や特徴を活かしつつ、古くなったもの・不要だと思ふものを捨てずに新しいアイデアを加えて別のものに生まれ変わらせること)して、地域で役に立つプロダクトを作る試みである。例えば、現在開発を続けているアップサイクル家具や屋外ベンチの製作過程にタッチポイントを増やして地域住民を巻き込めるものにし、シルバー世代や若者に仕事を作る・スモールビジネスの芽になる仕組み作りを検討する。

活動内容

1. 拠点づくり・活用実験 → 町の有休資産であった蔵を活動拠点とし、整備と活用実験を行う。
2. アップサイクル関連のワークショップや食器のフリマ等 (開催延期)
3. ベンチを使った活用実験 → アップサイクルベンチを使った朝ごはん企画の開催 (開催延期)
4. アップサイクル系プロダクト開発 → 地域の家具職人・県立大学の学生・地域住民と空き家の中の家具をリペアしたり新しい家具に生まれ変わらせる活動

成果や課題点

【成果】

- ・使われていない椅子や民具をリユースしたアップサイクル椅子を製作。
座面がボロボロの椅子は古い着物を張替生地として再利用した。
アップサイクル椅子をワークショップ形式で製作するアイデアと手法は、隣市の相生市相生地区の「どうぞのいすプロジェクト」へ伝播した。
- ・アップサイクル拠点の活用
町全体のアートイベント「たつのアートシーン2021 龍野国際映像祭」へ会場として提供。アップサイクル椅子の制作過程と共に、当事業が空き家問題へのアプローチであることと合わせてPRの場とした
- ・県立大学生企画のアップサイクルプロジェクトへ協力
RREP (兵庫県立大学地域草生人材育成プログラム)の取組として、古材を活用したサイクルラックを制作する企画へ材料とマンパワーの提供
前年製作したアップサイクルベンチを活用した朝活イベント企画 (開催延期中)
- ・アップサイクル関連のワークショップ&食器のフリマ (開催延期中)

【反省点】

イベント実施予定日が新型コロナウイルス蔓延防止措置期間と重なり、現時点で実施完了できていない。
特に地域のお年寄りやファミリー層を巻き込みたい意図があるため、感染対策や開催時期については特に気を遣うものとなった。

今後の展望 成果の活用

アップサイクル椅子の制作を通して相生地区と繋がりができたため、2地域でアップサイクルの取り組みを広げていける(椅子や家具の物的資源と、渡す人・直す人・使う人の人的資源が増えうる)見込みがある。
また、相生地区でも空き家問題は深刻であり、椅子や家具集めが龍野や相生の空き家相談に繋がる可能性を見出している。

